（別紙4（2））

事業所名　グループホーム宝南の家

作成日：　平成　29年　　11月　20日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念について学び深められるように職員会議で理念が生まれた経過や理念をどう活用し実践に生かすかを話題にしている。しかし理念を難しく考えてしまい、普段の関わりが理念に基づく支援にすることが職員全体に繋がり持てない。	理念に基づく支援ができるように、職員全員で学び深めよう。	KJ法やグループワークを定期的に持ち、職員が自ら考える機会を作る。また、職員が理念を常に意識できるように方法を職員全体で検討する。	12ヶ月
2	26	日々変わる利用者の心身の変化がケアプランに追いつかない。些細な利用者の願いを実現できるように職員が気軽に企画提案できるような仕組みが充分でない。	一人ひとりの利用者の願いが実現できるように職員全体がチームワークを発揮して可能性を追求してみる。	今年度から実現したケース会議の内容を充実させて、個別の願いがかなえられる工夫をしていく。 計画作成担当者と実践現場が今よりより密になり実現できるようにしていく。	12ヶ月
3	19	去年から納涼会や敬老会など職員が企画して家族や地域の人との交流が持てる機会を作ってきた。これからはより関係が深められるように、家族様にも一緒に企画を検討できる機会を持てるようにしていきたい。	利用者を支える協力者として家族や地域の人との連携を図る。	次年度の事業計画の説明を何らかの形で家族様や地域の方に報告する場を設ける。その中で家族様からの意見を頂きながら無理のない形で協力できる仕組みを一緒に考えていただく。	12ヶ月
4	7	今年3月より権利擁護虐待防止に関する学習会を実施しているが、身体的虐待がいけないことはわかっているが、言葉が知らず知らずに相手を傷つけていることがあり、悪いことは分っているが気持ちがなくうっかり発言している。	日々の言葉に相手の立場に立った優しい言葉掛けを行うようにする。	スピーチロックといった、自分の発言が相手にどのような影響を与えるのかを考える学習会を不定期で実施する。発する言葉の大切さを今一度再確認する。	12ヶ月
5	11	今年から始めたケース会議での議論ではタイムラグが最小限に済む様になってきたが、事によっては職員全体に周知しにくいことが判った。その理由は参加者が少ない場合の伝達方法が充分でないことや、意見に偏りやばらつきからくるものではないか。	全ての職員が同じ方向を向いて利用者の人生を支えていく。	利用者の変化や気づきに職員が替わっても同じような支援が継続できるように、ケース会議の進行内容や伝達方法の充実を図る。全ての職員の言葉を事業に反映させチームワークを強くする。	12ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。